

論文番号 169

担当

札幌医科大学 医学部 薬理学講座

題名(原題/訳)

Acitretin is converted to etretinate only during concomitant alcohol intake.

Acitretin(合成レチノイド、ビタミン A 類似薬)はアルコールとの同時摂取で etretinate(合成レチノイド)に変換される

執筆者

Gronhoj Larsen F, Steinkjer B, Jakobsen P, Hjorter A, Brockhoff PB, Nielsen-Kudsk F

掲載誌(番号又は発行年月日)

British Journal of Dermatology 143(6): 1164-1169 (2000)

キーワード

Acitretin、Etretinate、ビタミン A、レチノイド、エタノール、角化症

要旨

Acitretin は半減期の短さ故に、様々な角化症の治療で etretinate に代わって使用されている。これまでに、エタノールの存在下で acitretin のエステル化による etretinate への変化が報告されている。本研究は種々の用量の acitretin を服用した角化症の患者の(代謝物)etretinate の血漿濃度を測定し、エタノール摂取の影響について検討した。また、エタノール摂取が etretinate の代謝産物生成に及ぼす危険性について検討を加えた。3ヶ所からの 86 名の外来患者を対象とし、acitretin、その代謝物 13-cis-acitretin と etretinate の血漿濃度を測定した。患者は acitretin を 1 日 0.1 mg と 1.3 mg を投与された。結果は、86 名の患者中、30 名で血漿 etretinate が検知された。アルコールを飲んでいない患者 20 名では etretinate は見出されなかったが、週平均アルコール摂取量がエタノールに換算して 200 g 以上の患者 16 名では全員で血漿 etretinate が認められた。エタノールで 200 g/週までの中程度アルコール摂取患者 50 名中 14 名で etretinate が検知された。アルコール摂取の程度が高い程、etretinate 生成の危険性や血漿 etretinate のレベルが高くなる連関が認められた。結論として、経口レチノイド剤の催奇性や副作用のゆえ、特に妊娠が可能な女性は、acitretin 治療中と治療終了後少なくとも 2 ヶ月はアルコールを禁酒することを通達すべきである。また、患者が確実にアルコール摂取制限を出来ない場合には、治療後 2、3 年の避妊期間を推奨すべきである。